

人権ネットワーク八幡

NEWS

事務局 〒523-0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)
 電話 【携帯】 080-2525-7114(高坂)
 【メール】 Tko.koj1224@yahoo.co.jp

2024年12月19日付朝日新聞 「折々のことば」 ● 鷲田清一(3297回)より

ある集団を抑圧し、権利を剥奪(はくだつ)するのは、彼らの長所を見たくないからでもある。 アルン・ガンジー(マハトマ・ガンジーの孫)

自分に自信がないと、自分の強さを確認するために「自分より下の存在」が必要になる。見下したいから美点は認めない。つまり差別は弱さの表れなのだ。インド独立運動の指導者、マハトマ・ガンジーは差別は差別する側の意識下の不満を燃料にしており、その供給をまず止めよと孫に説いた。

『おじいちゃんが教えてくれた 人として大切なこと』(桜田直美・訳)から。

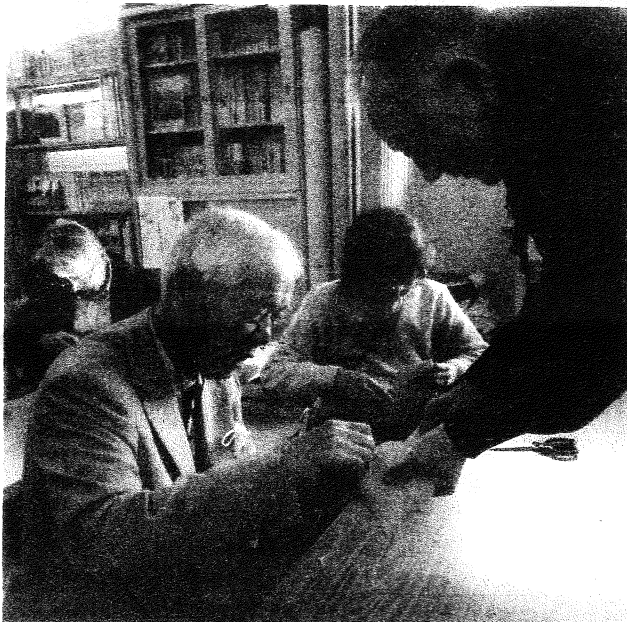
2025年が はじまりました

昨年とは違い、天候以外はおだやかなスタートとなった2025年。不安というと、侵略・報復・武力行使による現状変更など世界大戦を誘発しかねない情勢ということになります。日本の不安は、エネルギー問題や経済の停滞ということになるのでしょうか？いずれにしろ日本の基盤は「平和」、その維持に尽きると思います。

本会は「人権」について考え行動すること、革文化や部落の歴史をお伝えすること、機関誌を通じて発信することなどを継続してきました。多くの方に支えられてここまで活動できましたが、健康問題と格闘する高齢者(60~70代)で事務局を運営し活動を維持するのは結構大変です(しかも少人数)。共に活動できる方が一人でも多くなることを願っています。敷居は高くありませんので、是非、力をお貸しください。

冒頭の言葉は、「非暴力が人間最大の武器」と訴えたガンジーの言葉です。「差別は弱さの表れ」「差別の燃料は不満」。さらに加えて、人々の不安や怖れが差別を生み出すということになるのでしょうか。忘れてはいけない、大切な言葉だと思います。会員・読者のみなさん、今年もよろしく願います

* 昨年末、二組のお客様が研修のため来られました。2枚の写真で紹介します。



11月21日、午前・午後と1日研修を実施された、草津市常盤学区の民生・児童委員のみなさん。お昼休憩をはさんだ長丁場、お疲れ様でした。



11月15日、フィールドワークやレザークラフトを体験された愛知・犬上人権教育推進協議会のメンバー。クラフト完成後の笑顔。

所外雑記

「光州City」“白竜”放送されなかった曲

♪ 「熱く燃えてる南の大地が 俺の目を覚ます 5月の空に銃声が鳴り響き
町は炎に包まれた 自由を叫ぶ人 喊声(かんせい)が街にわき立っている
光州シティ
時代の嵐が吹きすさぶ 街だ ~」



〈現在の光州市〉

私は、MD化した「光州シティ」を流しながら、川村正雄さんに借りた「少年が来る」を読み始めてい
る。さて読了する頃には、ユン政権はどうなっているだろうか？ (TK)

1980年代、韓国光州で起こった民主化運動を題
材にした、ロックバンド白竜の歌である。残念ながら
メディアで流れることはなかった。

私はこの曲(テープ)を広島の平和集会で見つけ
て買い求め、当時、擦り切れる程聴き返していた。

さて2024年、再び「光州事件」が注目された。一
つは、ノーベル文学賞を受賞したハン・ガンの作品
『少年が来る』~新しい韓国の文学15~(CUON社
2016年発行 ¥2500+税)がこの事件をテーマに
している。

そして12月に入り、突然、韓国のユン大統領が
「戒厳令」(非常戒厳)を出して大騒ぎになった。韓
国では光州事件以来の戒厳令であり、市民の大勢
が国会に集まり軍隊に抗議している場面が、連日
テレビに映し出されていた。

読書の草原

「日ソ戦争~帝国日本最後の戦い~」
麻田雅文・著 中公新書980円+税

1945年8月9日に突然始まったソ連の対日侵攻。戦闘は8月15日を超
えてなお続けられ、中国残留日本人孤児問題、北方領土問題、朝鮮半島
の南北分断等今日まで続く諸問題の発端ともなった3週間の戦争を岩
手大学の麻田雅文准教授がまとめた一冊です。満州における開拓民の
逃避行、南樺太での女子交換手の自決、占守島での日本戦軍隊の奮戦
等、今まで個別の話として知っていた話が私の中で一つにまとまりました。

かつて平和学習の席で子ども達と一緒に、安土の教育長を務められた
村地習作先生の満州での逃避行体験を聞かせていただいた経験があ
りますが、それがどの様な流れの中で起きたのかがよく分かりました。
日ソ戦を期待するアメリカの動きから幻となったソ連による北海道占領
計画まで、短い期間ながらも戦後世界の姿を決めたこの戦いから多く
の事が学べました。

(水来亭平助)



日ソ戦争を戦後世界に引き継いだ

第2次世界大戦、
最後の
全面戦争

イオンシネマへ行こう

「はたらく細胞」 2024年日本映画



主人公は人間の娘と父、それとも赤血球と白血球？
不思議なファンタジー作品が公開中です。

19世紀にヨーロッパで広がった日本趣味のことを
ジャポニズムと言い、芸術での影響が大きかったそう
です。先日、現代漫画文化の世界的広がりをニュー
ジャポニズムとするNHKテレビの特集を見ました。本作
は、そんなジャポニズムそのものです。

原作は漫画、作者は清水茜さんで2018年にはアニメ
化もされているとのこと。現実世界で生きる親子と、
キャラクター化された人体内部の登場人物が、絶妙
に絡み合います。

この作品ある意味、健康啓発映画だとも言えます。「いや〜っ 映画って本当に楽しいですネ！」